

2026年度（令和8年度）事業計画（案）

児童発達支援事業所 デイジーハウス

1 施設を取り巻く現状と課題

（1）事業の種類及び利用定員

① 児童発達支援事業所 定員 10 名

（2）県市町村等からの受託、補助事業等

（3）地域における公益的な取組

（4）運営方針

「できた！」の笑顔を自信につなげる保育。

私たちは、お子さまの「ありのままの姿」を肯定し、ご家族の想いに寄り添いながら、地域社会の中で安心して自分らしく過ごせる基盤を共に築いていきます。保育者が共通の姿勢で支援に臨むため、5項目を活動の柱とします。

1. ありのままを受け止める（個性の尊重）

大人の価値観を押し付けるのではなく、お子さま一人ひとりの特性や感情をそのまま受け止めます。「その子らしさを大切にしたい環境設定と関わりを追求します」

2. 小さな一歩を共に喜ぶ（共感と伴走）

昨日できなかったこと、今日初めて見せた表情など、日常の中の小さな成長を見逃さず、お子さま・ご家族と一緒に喜び、歩みを共にします。

3. 保護者の思いに寄り添う（信頼関係の構築）

保護者様が抱える不安や願いに真摯に耳を傾けます。専門用語による説明以上に、日々のエピソードを大切に共有し、共に手を取り合える関係性を築きます。

4. 関係機関と連携を取りながら、より良い支援に繋げる

私たちは単にお子さまを「預かる」場所ではなく、各関係機関と手をつなぎ、お子さまの24時間の生活をトータルで支えるチームの一員でありたいと考えます。

5. 「はじまり」と「おわり」を大切にする（見通しと安心）

活動の切り替えを丁寧に行うことで、お子さまが「次は何をするか」という見通しを持てるようにします。この積み重ねがお子さまの心の安定と自己コントロール感の育成に繋がると信じて実践します。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	事業所の情報発信
現状と課題	関係機関との連携は定着しつつあるが、保護者との接点が少なく、事業所の役割が見えていない現状がある。
取組の方向性	SNS（インスタグラム）を活用し、日々の療育内容、職員の紹介、行事などを定期的に広げていく。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	保護者への透明性と「チーム支援」の掲示
現状と課題	専門職がいないため、保護者のニーズに対してどこまで対応できるか職員が不安を抱える現状がある。
取組の方向性	日々の支援の根拠を、システム上だけでなく、連絡帳や面談回数を増やすなどして、丁寧に説明する機会を設ける。日々の「観察」に基づく細やかな変化の報告を細目を行うことで、事業所としてできることを明確にすることで、保護者への安心に繋げていく。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	保育者の内的成長の支援
現状と課題	ミーティング・ケース会議の頻度が少ない。
取組の方向性	お互いの実践を認め合う「振り返りミーティング」の定例化。専門スキル習得だけではなく、5つの「こころがまえ」を体現できているかをお互いに確認し合う文化の醸成。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	ICT ツールの導入による記録業務の効率化
現状と課題	手額の記録・事務作業が多い
取組の方向性	無駄な業務を削減し、直接支援に充てる時間増やすとともに、プライベートの充実を支援する。

(2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	遊びを通した「試行錯誤型」療育の継続（弱みを強みに）
現状と課題	療育を行う中で、特定の専門職が配置できていない。
取組の方向性	特定の専門職がいないからこそ、保育者全員がお子さまと徹底的に遊びこみ、日々「振り返り」を行う。チームで論議し、様々な手法を試しながら、最適解を導き出す姿勢を継続する。

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	集団生活に向けた支援
現状と課題	特性により集団になじめない子どもが多い
取組の方向性	ルールの理解が乏しく、輪の中に入ることが難しい子どもの利用が多いため、子どもの「やりたい！」と思う意欲的な気持ちに寄り添う支援を提供していく。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	保護者及び関係機関との連携
現状と課題	保護者との接点が少ないため、保護者の安心に繋がっていない現状が見える。
取組の方向性	HUG システムを導入し、日々の療育の様子は伝えられているが、実際に対面してじっくり話をする機会が少ないため、定期的な親子参観の場を設け、他事業所との交流の場を図るなど、事業所での役割を知ってもらう機会を提供していく。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	多機能型への移行
現状と課題	11月より開所し、現状5名の利用があるが、保護者の障害受容の低さ、相談支援事業所との繋がり、の困難さが課題となり、児童のみ定員10名は厳しい現状がある。
取組の方向性	町内には現在放課後等デイサービスが1事業所あるが、定員満床である。児童クラブなどではすでに発達障がいを抱えている児童が数名おり、保育園などで対応に苦慮されているケースもある。子どもの受け入れ場所・発達に応じた療育の提供のため、放課後等デイサービスとの多機能型へ

	の移行を検討する。
--	-----------

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	業務継続計画
現状と課題	計画はあるものの、実際の実践にまで至っていない。
取組の方向性	同建物の事業所と連携しながら、少人数でも機能する実践的なシュミレーションを計画的に行っていく。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	報連相の徹底
現状と課題	非常勤職員もいるため、情報共有がうまく行き渡らない現状がある。
取組の方向性	子どもの療育内容が非常勤職員にまでうまく行き渡っていないため、ラインワークス等を充実させ、こまめな情報共有を徹底する。

3 目標利用率

事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
児童発達支援事業所	10	50%	60%	70%	75%	80%	85%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	80%

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名称	執行見込額
療育用遊具	150

5 修繕計画(大規模修繕を除く)

(単位：千円)

名称	執行見込額
なし	なし

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

名称	執行見込額
なし	なし

令和8年度 年間行事計画書(案)

児童発達支援事業所 デイジーハウス

内 訳 月	施設行事	安全計画
4月	進級パーティー 自己紹介ゲーム	備品・消防設備点検
5月	柏餅づくり（創作）	避難訓練（豪雨）
6月	雨天の室内レクレーション	台風対策 施設外環境ルート
7月	七夕パーティー 水鉄砲大会	施設内備品管理
8月	夏祭り 買い物体験	施設内備品管理
9月	お月見クッキング	施設内備品管理
10月	ハロウィンパーティー	消防設備 暖房器具点検
11月	施設見学体験	台風対策
12月	クリスマスパーティー 大掃除	避難訓練（地震）
1月	お餅つき	施設内備品管理
2月	豆まき おやつ作り	避難訓練（火災）
3月	遠足	施設内備品管理